

## キャリアパス委員会 年会企画報告

2019年の年会では、「それでいいのか？研究室の選び方」、「大学院の無償化を目指して」というテーマで2つのランチョンセミナーを行いました。会場には、学部生から教授の方々まで幅広い層にご参加いただき(初日：約270名、2日目：約240名)、活発に議論を行うことができました。

年会初日の「それでいいのか？研究室の選び方」では、事前にアンケートを実施して866件と非常に多くの回答をいただき、その結果とケータイゴングを利用した当日参加の方々の意見をもとにディスカッションを進めました。研究室選びで決め手となった点の一番が「研究内容」、次に「PIのキャラクター」ということで、納得の回答でした。大学にいたときの実感としては、「(いろんな意味で) 楽かどうか」、「ブラックかホワイトか」などの要因が大きく関わっているような印象ですが、分子生物学会の年会に参加される皆さんは研究重視ということで、安心しました。ただ、研究室に入る前の印象と入った後の実際が異なり、モチベーションを失うこともあります。研究室のホームページや論文を見て、研究内容を確認するのは重要ですが、実際に研究室主宰者と直接お話しされるのが一番間違いが無いと思います。また、自分と合わない研究室に入った場合は、次に移ることを考えたほうが良いとの意見が多くありました。学部の卒業研究で研究室に入ってから、修士課程、博士(後期)課程、博士研究員と何度も研究室を選ぶチャンスはあります。海外にも目を向ければ、非常に多くの研究室がありますので、広い視野で考えてみるといいのではないのでしょうか。もちろん、忍耐力は大切ですが、必要以上にひとつの研究室で無理することはないと思います。現在活躍している研究者の方々のキャリアも様々で、ずっと同じ研究室で大学院から助教、教授になった方もいれば、修士、博士、博士研究員で別な研究室を渡り歩いてきた、あるいは、大学院に再入学した方々などもあります。日本では寄り道や再挑戦することに抵抗感があるようですが、回り道は必ずしも悪いことばかりではないと思います。

2日目の「大学院の無償化を目指して」では、アメリカの大学院事情についてのお話から始まり、無償化のメリットやデメリットなどについてディスカッションしました。単に博士課程の学生が増えれば良いという単純な話ではなく、その後のキャリアパスなども含めて考える必要があることや学生の質の低下に関する危惧など、非常に建設的な議論ができました。ほとんどの大学院生が、大学院生に給与が支払われる場合、「報告書の提出などの負担はいとわない」と回答したことは、彼らの責任感や使命感を表していると思います。日本の研究が欧米諸

国や中国に遅れてきはじめているという危機感が叫ばれていますが、現在の研究の推進の中心を担い、かつ、将来的にも活躍が期待される博士課程学生の待遇改善はまさしく喫緊の課題であるといえます。文部科学省の方にも参加していただき、また、ランチョンセミナー後に情報交換を行いました。引き続き、情報交換や要望等をしていきたいと思っています。

ランチョンセミナーの概要と全文(学会HP)について、是非お目通しいただきたいです。

キャリアパス委員会  
委員長代行 木村 宏

### 【それでいいのか？研究室の選び方】

- 日 時：2019年12月3日(火) 11:45～13:00
- 会 場：福岡国際会議場 2階 203
- 参加者：約270名
- 講 演：花嶋かりな(早稲田大学教育・総合科学学術院)

2019年キャリアパス委員会主催ランチョンセミナーでは、誰もが一度は経験する「研究室選び」がテーマとして取り上げられました。冒頭に司会からイントロダクションとして、8月に実施した事前アンケートの結果が紹介され、続いてキャリアパス委員のパネリストを交えたケータイゴングによる聴衆参加型のディスカッションが行われました。事前アンケートでは866件と例年に増して多くの回答が寄せられ、会場にも多数の学部学生、大学院生、ポスドク、PI(研究室主宰者)の方々にご参加いただき、リアルタイムでコメントをいただくことで「イマドキの理想の研究室」について皆さんと一緒に考える貴重な機会となりました。本開催報告ではセミナーで取り上げられた「研究室選びで重視すべき点」、「研究室内のコミュニケーション」、「働き方とキャリア形成」を中心に本ランチョンセミナーの内容についてご紹介します。

### 【研究室選びの判断材料】

初めての研究室配属やポスドクのスタートなど、研究者人生において研究室選びはつきものですが、研究室選択は就職先を選ぶのと同じくらいキャリア形成において重要な問題です。今どきの学生たちが何を基準に研究室を選んでいるのか、また現在研究室を主宰するPIが自分のキャリアを振り返って何を重視すべきとアドバイスするのかについては知りたいところです。事前アンケートでは「研究室選びの最も大きな決め手」については学

生、ポスドク、PIとも「研究内容」が1位を占め、研究室は研究テーマありきという考えで一致していました。一方研究内容の次に重視した・すべき項目として、学生は「研究室の雰囲気」を挙げたのに対し、PI自身は「PIのキャラクター（性格・個性）」と意見が分かれ、これら以外にも「研究室の業績」「研究費」「研究室で使う生物種」「研究機器の充実度」といった研究環境、設備がいずれも研究室の選択指標となることを示す結果となりました。さらに会場の参加者への「研究室選びで何を一番参考にしたか？」という設問に対しては「自らの意思（評判に関わらず、自分が良いと思えばいい）」が最も多く、次いで「研究室やPIの知名度・資金力」という結果となり、このあたりは学会に参加する学生の自主性も伺えました。予想外に「ウェブサイト」は少なく、会場からはホームページは正確な情報が得にくく良いことしか書かれていない、という批判や、海外のホームページのように具体的な情報やPI自身の考えを提示すべき、などPI側から有用な情報を発信することが重要であるという意見が寄せられました。ウェブや第三者の情報よりもPI自身との事前面談をしっかりと行うことがミスマッチを少なくするポイントとして挙げられた一方で、あくまでも好きな研究をやりたいという意志が、結果的にやり遂げる環境の獲得にもつながり、条件も照らし合わせた上で最終的に自分で決めるのがよいというアドバイスも寄せられました。

### 【研究室内コミュニケーション】

研究室は一週間の大半を過ごす場所になりうるので、充実した研究生活を送るためには実験以外にも研究室メンバーとのコミュニケーションが鍵となってきます。「あなたは今の研究室を選んで満足していますか？」の設問に対し、会場の53%が「満足している」と回答したものの、逆に半数近くが何らかの不満を抱えているという結果になりました。不満があると答えた人のうち52%が「研究は充実しているが、研究室生活には不満がある」と答えており、研究室内の人間関係が日々の研究に影響を与え得るということを示唆しています。さらに「選んだことを後悔している」人が全体の10%にのぼり、合わない研究室に入ってしまった場合は進学の段階で他の大学や研究室を選ぶことも考えた方がよい、という意見もありましたが、「ラボ内のディスコミュニケーションから生じている可能性もある」のでPIに相談したり、PI側からも不満の理由を知る努力をしてほしいというアドバイスがありました。「研究室も生き物のようなもので、あなたが入ったことによって研究室自体が変わる（変わってしまうし、変えることもできる）ことを認識したらよいと思う」というコメントもあり、研究室を流動的なものと捉えれば改善策もみえてくるかもしれませ

ん。

具体的な人間関係では学生、スタッフ、PIそれぞれの立場からコメントが寄せられました。自分のPIの好きな点については「頭が良い、能力が高い」、「Discussionにとことん付き合ってくれる」が上位を占め、不満点については「多忙すぎる」、あるいは少数派ですが「威圧感がある」「頼りにならない」等のシビアなコメントも寄せられました。一方「PIのほうから見た研究室の学生・スタッフ」は不満点の1位が「ギラツキが少ない」、2番目が「研究室に来て研究をしない」という結果になり、PI世代と今の研究室の学生では意識にギャップがあることもわかります。具体的な学生・スタッフとの交流について、飲み会やラボ旅行などのラボイベントについては学生、スタッフ、PIとも「どちらかという開催したい」という回答が最も多く、「先生との呑み会楽しい」という声もある一方で「有志で開催してもらい、私は福澤諭吉に代理参加させる」という配慮もあり、また「30歳代以下限定の教員 & 院生の飲み会がある。もちろんPIにはナイショ…話の内容は推して知るべし」「いわゆる『ブラック研究室』と言われていても、中の人たちが楽しそうに文句を言っているラボは良いラボだと思います。」というコメントから、PIから離れたところでメンバー同士が愚痴を言い合える環境も、ある意味健全な研究室の証と伺えます。研究室のメンバーは一緒にいる時間が長いので仲良くやらなければいけないという心理がはたらきがちですが、サイエンスのよいところは立場に関係なくフラットに議論できるところにあり、多少合わなくてもお互いリスペクトしながらサイエンスを真摯にやっていけば新しい発想や問題解決につなげていける、という助言もいただきました。

### 【研究室内働き方改革】

実験系研究はデータを出してなんぼの世界でもあるので、研究室の滞在時間が長くなりがちです。会場では「あなたは土曜日または日曜日（どちらかでも）ほぼ毎週研究室に行っていますか？」という設問に対してはすべての職階で8割近くが「はい」という結果を占めました。数少ない企業の参加者は「いいえ」だったので、勤務時間に対する認識が企業と大学とで異なる実体が浮きぼりにされました。一方大学でも「働き方改革」が提唱されてから土日に働くことが厳しくなっている傾向もあり、機関によっては届出を出して承認を得ないと土日に働けないという事例もありました。「夜間は事故の可能性があり、極力避けるべき。時間がなければ朝早く来て始めるほうがいい。研究時間が長いこと、研究室の滞在時間が長いことは、業績とは無関係でむしろ時間効率の悪さをさらけ出している。」という意見の一方で、「正月は休むと言っていましたが、もう2日です。いつから研

研究室に来るのですか？」というコメントもあり、このあたりは夜間土日祝日の研究についてPI間でも認識の違いがあることがわかりました。実際「夜間土日祝日の研究について」は各カテゴリとも「自主的に行う場合は良いが強制されるべきではない」という回答が一番多かった一方で、「実験内容や状況が差し迫っている場合は、やるべきだと思いますか？」という設問については「やるべき」という意見が多い結果となり、他にも「休日は機器が空いているのでありがたい」、「細胞があるから土日は1時間だけ行く」、「土日は家事・育児があるので休めない」など、それぞれの状況に応じた働き方を遂行している状況も伺えました。また研究以外の業務が多すぎるという議論もありました。「PIを見ていて大変だと思いますか？」また「PIになって大変ですか？」という設問ではいずれも「はい」が8割を占め、「研究以外の仕事が多過ぎそうに見えて、研究続けて目指すのこれなのか、とって悩んでしまうときも…」というコメントや「忙しすぎてメンバーとなかなか話す時間がない」といった多忙による研究室メンバーと接する時間の少なさも問題として取りあげられました。一方で、アカデミアは研究が好きでこの道に進んでいる人がほとんどなので、その研究ができるということ自体が幸せという捉え方もありました。最近ではアカデミアの研究に対しても「仕事」という言葉が先行し土日実験することがマイナスに捉えられ、学生にとっても研究室選びのファクターとして「楽な研究室」が重視される傾向もありますが、本来研究とは熱中できる趣味で、だから土日もしたい、という意見もあり、それぞれの価値観をふまえた上で働き方を最適化していく必要があることを考えさせられました。

### 【研究室の選択とキャリア形成】

ほとんどの研究者は初めての研究室配属から独立したPIになるまでに、複数の研究室を渡り歩くこととなります。実際に研究室の選択はキャリアにどのような影響を与えるのか？についてもディスカッションがなされました。「大学院時代、今の職の期間に研究に求めること」は「知識・技術・ロジックの習得など研究者としての成

長」が多かった一方で、「研究室を移る際、研究対象や手技が変わること」については「業績ができるまでに時間がかかるからなるべく避けたい」「ある程度やってきたことは活かしたい」という意見の他に「時間はかかるが多くのことを学びたいので率先して変えたい」という回答も多く、多様な技術や知識を吸収することが研究者のキャリア形成に重要であることがわかります。さらに「次に研究室を移るなら前回とは違う視点で選ぶ」と回答したポストドク・non-PIは、現在の研究室は「研究内容」で選んだが、次の研究室を選ぶ際には「PIになれるかどうか」を指標とするという意見が多く、研究室選択がキャリア形成に重要な問題であることをあらわしていました。会場からは「若い時は自分がいいと思った研究室を渡り歩いた。意図せず、キャリア形成に意義あったことに年とってから驚いている」というコメントも寄せられ、大学院やポストドク時代の経験や人脈が研究室を離れてからの財産となり、将来的にさらなるキャリア形成につながっていることが示唆されました。

### おわりに

今回研究室選択というテーマで開催しましたが、セミナー後の回収アンケートでは「全PIに聞いてほしかった」という意見も多数寄せられた一方で「他の研究室の状況を知ることができてよかった（いつもラボに引きこもっているの）」「同じようなことで困っている人がいろいろいるなど元気がでた」などの意見も多く、普段入り込むことのできない他の研究室の実態を知るだけでも、前向きに研究室生活を送るきっかけになれることが示唆されました。パネルディスカッションを通じて理想の研究室には一つの正解があるわけではなく、PIの考え方や運営によって様々なパターンが存在しうることがわかった一方で、メンバー同士のコミュニケーションが一つのキーワードになったと思います。本ランチセミナーがみなさんのこれからの研究室選び、また充実した研究室生活を送るための一助となりましたら、キャリアパス委員一同として嬉しく思います。

(文責：座長・花嶋かりな)

### 〈アンケート〉 集計結果 (四捨五入しています)

#### 【問1】 あなたの年齢は？

① 24歳以下	20	20.2%
② 25～29歳	24	24.2%
③ 30～34歳	14	14.1%
④ 35～39歳	9	9.1%
⑤ 40～49歳	15	15.2%
⑥ 50～59歳	13	13.1%
⑦ 60歳以上	4	4.0%

計 99 100.0%

**【問2】 あなたの身分・職階は？**

① 学部学生	3	3.0%
② 大学院生（修士）	21	21.2%
③ 大学院生（博士）	20	20.2%
④ ポスドク	11	11.1%
⑤ 大学教員（助教・講師・准教授）	23	23.2%
⑥ 大学教員（教授）	14	14.1%
⑦ 研究員	2	2.0%
⑧ 主任研究員・チームリーダー・室長以上	1	1.0%
⑨ 企業	3	3.0%
⑩ その他（特命教授）	1	1.0%
計	99	100.0%

**【問3】 このセッションを何で知りましたか？（※複数回答可）**

① 学会ホームページ	33	28.9%
② 年会ホームページ	36	31.6%
③ 会報	4	3.5%
④ プログラム集	29	25.4%
⑤ ポスター	2	1.8%
⑥ 会場内の広告	3	2.6%
⑦ フェイスブック	0	0.0%
⑧ クチコミ	3	2.6%
⑨ その他（ランチョンセミナー抽選紹介メール）	2	1.8%
⑩ その他（ランチョンセミナー整理券配布デスク）	1	0.9%
⑪ その他（アプリ）	1	0.9%
計	114	100.0%

**【問4】 このセッションを開催した時間帯はどうでしたか？**

① ランチョン形式でよかった	98	99.0%
② ランチョン以外の時間帯がよかった	0	0.0%
※ 未記入	1	1.0%
計	99	100.0%

**【問5】 前半の講演はいかがでしたか？**

① とても面白かった	37	37.4%
② まあまあ面白かった	38	38.4%
③ 普通	21	21.2%
④ あまり面白くなかった	0	0.0%
⑤ つまらなかった	0	0.0%
※ 未記入	3	3.0%
計	99	100.0%

**【問6】 後半のディスカッションはいかがでしたか？**

① とても面白かった	48	48.5%
② まあまあ面白かった	39	39.4%
③ 普通	8	8.1%
④ あまり面白くなかった	2	2.0%
⑤ つまらなかった	0	0.0%

※ 未記入	2	2.0%
計	99	100.0%

**【問7】 今後このような試み続けるべきだと思いますか？**

① 是非続けるべき	87	87.9%
② 続けるべきだが方法を変えた方がよい	7	7.1%
③ やめた方がよい	0	0.0%
④ わからない	2	2.0%
※ 未記入	3	3.0%
計	99	100.0%

**【問8】 このセッションに関する感想をお聞かせください。**

- ・事前アンケートの結果を配布いただき、ありがとうございました。
- ・事前アンケート結果が面白かったです。PIがPIのキャラを重視しているのはエゴにもとれるし、真実の声にも聞こえる。
- ・事前アンケート結果で、やはりボスと下の人間の間で認識の乖離があるなと思いました。
- ・事前アンケート結果で、PIと学生の認識のズレがおもしろかった。大学が研究機関でなく就活予備校となってしまっている今、サイエンスができない研究室も多いかと思う。そんな研究室の学生同士のミスマッチも考えていきたい。
- ・事前アンケート結果は、違いが分かりやすかった。
- ・事前アンケート結果で、自分と同じ思いの人は意外といることを知れてよかった。
- ・事前アンケートは、選択肢の設定の仕方がすでにある結果を期待してなされているように感じました。
- ・このように、学生、non-PI、PIなどのそれぞれの立場の意見を見ることができるとは興味深かった。ディスカッションでも出ていたように、この学会に来ている人々ですら、意見が分かれるということが明らかとなって良かった。
- ・ディスカッションにあったようにこの学会に来ている人々で意見をまとめるとこのようになる。是非とも、もっと幅広い枠で意見を集約して、すれ違いを正していく機会とできると良い。
- ・本学では、たてわりの教育システムをこわして、フラットなもの、かき根の高さを下げることがをめざしている。教員がもっと学生達とふれ合える環境を作ろうと考え、改革を進めている。
- ・いわゆる”ブラック”ラボのPIはこういうセミナーに興味がない、または「自分は大丈夫、正しい」と思っているのではないかと思う。もっと周知してほしい。全員に当事者意識をもってほしい。
- ・全PIが聞いてほしい。
- ・うちのボスにも来てほしい。そして改めてほしい。
- ・毎年、学生が多いような…。先生方にもきてほしい
- ・学部学生に一番伝えたい内容なのに、学会に来ている学部学生はあまり多くないのではないかと考えた。
- ・この内容を来ていない学生、PIにも共有したほうがいいのかも…
- ・今回のギロンにもありましたが学会にこれてない学生のイケンも大切だと思います。オンライン中継とかは？
- ・この議論を研究室に配属する前の学部生に伝えられたら、より効果的だと思います。
- ・とてもおもしろかった。学会会員全員（学会に来れない人含む）の意見を聞きたい。
- ・学会に来る人達は、やっぱりサイエンスに対してちゃんとしているなど。
- ・学会に参加している方々の参加型セッションなので、共通認識を持たせたい。
- ・母集団が、本学会に来られる研究者、学生である、ということを知りながら結果を考えること。
- ・学生が先生の意見を知る場にもなるのでよいと思う。
- ・他ラボの状況が知れて、いい機会でした。（いつもラボに引きこもっている）自分のラボとてらしあわせて、今後に役立ちそうです。
- ・雑務に追われていて研究の進みが遅いものの、他のラボはもっと大変なのを知って少し救われました。（もちろん業務改善は必要ですが）
- ・研究室で悩んでいるのは自分だけじゃないことが分かって、よかった。
- ・同じようなことで困っている人がいろいろいるなど元気がでた
- ・学生の意見（本音）を聞いておもしろかった。
- ・色々と気付かせてくれた（学生の考えとか）。
- ・学生は彼らなりに考えて行動しており、このセッションだけかもしれないですが、未来に希望を感じました。
- ・答えはないのだが、こういう問題を出し合う機会が良いと思う。多様性を認めるということが大事だと思います。
- ・土日に働くことのディスカッションが面白かったです。
- ・「研究室の選び方」がテーマなのに内容が浅い。土日に来ているとか、PIが多忙だとか、研究費とかいらぬ。広く浅くではない、テーマをほり下げるセッションにしてほしい。
- ・すでに研究室を選んでしまっている集団なので、ちょっと違う、という感じがしました。
- ・不満点についてもとり上げていて、参考になった。
- ・とても面白かったが、学生の視点の話ももう少しあるとよかった。
- ・PIの本音ももっときけたら良かった
- ・パネルディスカッションは有意義ではあったが、もう少しコメントの更新スピードを上げてほしいと思った。
- ・タイトルと内容にギャップを感じました。進行が（リアルタイムレスポンス）ムズカしかったのかもしれませんが。ただ、ラボで仲良く家庭的と促す一方で、働き方改革の話題は矛盾するののか。
- ・コメント含め、色々な状況・意見を知れて良かったが、パネリストが非常に気を使って話しているように感じた。せっかくの機会なので、全体的にもっと率直な意見が聞きたい。
- ・パネリストはキャリアパス委員に限る必要はないのでは？
- ・フロアからの意見をパネリストが批判するような場面があったが、少し配慮がない印象…

- ・司会が話しすぎだ。パネリストに話をもっとふって下さい。鈴木先生と木村先生しか目立っていません。第一三共の人は2度しか話していないのでは？
- ・花嶋先生の司会、明瞭で良かったです！
- ・選択肢から選ぶ設問よりも具体的な意見を聞く時間を増やす方が良いのではないかと思います。
- ・ディスカッションの時間が長い方が良いです。
- ・もう少し後半のアンケートの選択肢を増やしてほしい。
- ・アンケート結果をMBSJのwebsiteでdownloadできるようにしていただけたら、ありがたいです。
- ・設問が優しすぎる。本音に迫れない。コメントは本音が少し知れて、参考になった。
- ・コメントの方法に、乱暴な言い方等は避けるよう促す注意書きがあると、見てて嫌な気持ちにならないので助かります。
- ・もっとドロドロしてほしい。
- ・去年のセッションの方が楽しかった。
- ・匿名のため、本音の意見がいろいろ聞けて面白かった。
- ・近未来的で、双方向にコミュニケーションが取れた面白いセッションでした。
- ・コメントがとても面白かった。
- ・とてもおもしろいお話を聞けました。何よりコメントで参加できるのがよかったです。
- ・会場の方も参加できてよかったです。
- ・和やかな雰囲気楽しかったです。
- ・とてもおもしろかった。参加してよかった。
- ・とても興味深かったです。
- ・今後の参考になりました。
- ・大変参考になりました!!
- ・研究を続けても良いかもしれないという希望が少しもてました。ありがとうございました。
- ・研究室決めは大切なので、学ぶことが多かったです。研究=趣味になるのが理想的だなと思いました。
- ・アカデミアと企業との接点をより拡げて欲しい。

**【問9】 来年以降のセッションで取り上げて欲しいテーマがあればお教えてください。**

- ・ぜひ同じテーマでつづけてほしい
- ・学生で研究室を変えるメリット・デメリット
- ・企業からアカデミアへの移籍について
- ・アカデミックな道はどんな感じか（博士やポスドクの良いところ悪い所）
- ・修士学生の就活について（学生目線と職員目線）
- ・D進するかどうか。決め手。Dを取ったそのあとの将来について。
- ・ポスドクのキャリアパス
- ・ポスドク先のあっせんを受けるべきか。
- ・大学と大学以外のポスドクの働き方のちがいがい
- ・今のPI以外の人の目標は何か。研究をきわめたい/学位をとりたいたい/就職のためのキャリアアップなど
- ・よいM1、M2、Dr像
- ・ラボ内の常識、ジェネレーションギャップについて
- ・PI（院生）はPIのことをどう考えているのか。PIは学生（院生）のことをどう考えているのか。
- ・PI vs. その他のようなディスカッションでお互いのすれ違いを共有していけると良い。
- ・PIや学生のモチベーションをくじくような日本の研究環境について。どうしたら研究力をあげ、PIも学生もハッピーになることができるのか。
- ・ラボ運営を改善するために
- ・ブラックラボやブラックPIに対して周囲（ラボメンバー、近所のラボ、学科）はどう接するか？
- ・アカハラ、パワハラ、セクハラ関連… アカハラなのに、隠ぺいされている、または指導に熱心なだけにセクハラと（第3者に）うたがわれる…。この事実のズレ、どうすれば改善できるのでしょうか？
- ・「ファーストの論文をいつ書くか、どう書くか。」DCのように、早期に業績を求められる風潮とも関連して。早期業績主義は学生が研究室を移る妨げにもなっていると思うので深刻な問題だと感じている。
- ・予算について。国の予算に研究者がコミットする方法はないのか。
- ・研究費
- ・基盤的経費問題
- ・若手研究者の研究費について
- ・大学院生減少問題
- ・失敗談中心のトーク
- ・研究の質向上に関するテーマ
- ・キャリア形成とプライベートの両立
- ・研究とライフイベント（子育て）の両立、妥協について。学生参加者が多いと難しいかもしれませんが。
- ・特になし

**【問10】 本年会での属性調査（添付資料）をご覧になった感想をお聞かせください。**

- ・学部生が多くおどろいた
- ・学生が多い
- ・学生が多くて活気がありよかった。
- ・女性比率はまだまだ少ないですが、このような資料を見て「少ない」と認識することが重要だと思います。
- ・大学に持ち帰って、現在進めている大学院の組織改革の参考としたい。
- ・とても参考になりました。
- ・今後の参考にさせていただきます。
- ・今後も続けていってほしい

- ・勉強になりました。
- ・まだじっくりみてません。

**【問 11】 その他、ご自由にどうぞ。**

- ・ご飯おいしかったです。
- ・食事中や、コメント入力中等で、話の流れについていくことが難しいところがあった。
- ・配布資料は弁当をたべながらだったのでちゃんとみれてない。スライドの文字も小さくみづらかった
- ・会場間が遠くて開始に間に合わなかった
- ・スライドの文字が少し小さい。部屋の前付近の照明を落とした方が見やすいと思った。
- ・委員長の胡桃坂先生がご登壇されず、残念でした。皆に元気を与えてくださるパネリストですので。次回は是非！

**〈ケータイアナライズシステム〉**

**〈アンケート〉 集計結果（四捨五入しています）**

**練習設問：皆さんの属性について教えてください。**

・学部学生	14	8.1%
・大学院生（修士）	38	22.1%
・大学院生（博士）	32	18.6%
・ポスドク、助教、講師、准教授、研究員等の非 PI 職	39	22.7%
・独立助教・講師・准教授、主任研究員等の junior PI 職 （非テニュア・テニュアトラック）	10	5.8%
・教授等の PI 職（テニュア）	23	13.4%
・企業	2	1.2%
※未入力	14	8.1%
計	172	100.0%

**設問 1：研究室を選ぶにあたり、何を一番参考にしましたか？**

・研究室や PI の知名度・資金力	41	26.5%
・当該研究室メンバーの助言	12	7.7%
・友人や知り合いの研究者の助言	12	7.7%
・ウェブサイト	4	2.6%
・自らの意思（評判に関わらず、自分が良いと思えばいい）	73	47.1%
・その他	13	8.4%
計	155	100.0%

**設問 2：研究室を移る際、研究対象や手技が変わることをどう思いますか？**

・業績がでるまでに時間がかかるから、なるべく避けたい	31	20.3%
・時間はかかるが、多くのことを学びたいので率先して変えたい	96	62.7%
・PI の方針なので、嫌でも従う	2	1.3%
・何も考えず、流れのまま身を委ねる	12	7.8%
・PI の方針に従わず、自らのテーマで大発見をして見返したい	5	3.3%
・その他	7	4.6%
計	153	100.0%

**設問 3：あなたは今の研究室を選んで、満足していますか？**

・満足している	77	52.7%
・研究は充実しているが研究室での生活には不満あり	36	24.7%
・研究は充実していないが研究室生活は充実している	19	13.0%
・選んだことを後悔している	14	9.6%
計	146	100.0%

設問 4：(設問 3 で「1. 満足している」以外を選んだ方) どのような不満ですか？(複数回答可)

・やりたい研究ができない	17	15.6%
・研究や実験指導をしてもらえない	23	21.1%
・ハードワークを強要される	10	9.2%
・PI(先輩)が威圧的で意見が言いにくい	14	12.8%
・サイエンスをやる雰囲気がない	22	20.2%
・その他	23	21.1%
計	109	100.0%

設問 5：あなたは土曜日または日曜日(どちらかでも)ほぼ毎週研究室に行っていますか？

・はい	57	64.0%
・いいえ	32	36.0%
計	89	100.0%

設問 6：夜間土日祝日の研究は、実験内容や状況が差し迫っている場合は、やるべきだと思いますか？

・やるべき	133	91.7%
・やる必要はない	12	8.3%
計	145	100.0%

設問 7：(PI 職・junior PI 職以外の方) PI を見ていて、大変だなあと感じますか？

・はい	88	88.0%
・いいえ	12	12.0%
計	100	100.0%

設問 8：(PI 職・junior PI 職の方) PI になって、大変だなあと感じますか？

・はい	21	84.0%
・いいえ	4	16.0%
計	25	100.0%

設問 9：(設問 8 で「1. はい」と答えた方) 何が一番大変ですか？

・多忙による研究室メンバーと接する時間の少なさ	3	14.3%
・学生のモチベーションを上げるための努力	4	19.0%
・大学院(博士過程)進学率の低下	1	4.8%
・研究費の維持	12	57.1%
・その他	1	4.8%
計	21	100.0%

設問 10：(PI 職・junior PI 職以外の方) ポスとのコミュニケーション(研究以外の雑談や、食事を一緒に取るなど)は重要と思いますか？

・重要	37	37.8%
・ある程度必要	56	57.1%
・全く必要ない	5	5.1%
計	98	100.0%

設問 11：研究室のメンバーとはどう付き合いますか？

・友達になってプライベートでも仲良くしたい	37	26.4%
・研究室の中だけで仲良くできればよい	70	50.0%
・実験ができる人とは仲良くするが、そうでない人とは社交辞令程度	10	7.1%

・実験に必要なことは話すが、極力話はしないようにする ……	3	2.1%
・盛り上げ役として、みんなをまとめた ……	15	10.7%
・その他 ……	5	3.6%
	計 140	100.0%

#### コメント一覧

No	ハンドルネーム	コメント
1	五目	上司（教授）には指導している感を伝えていて、実際には部下は放置か仕事丸投げっていう指導教員が結構いる気がします
2	楽しかったです	ご飯が美味しかった
3	あいうえお	みなさん経歴がすごい
4	YUKI.N	福岡、うどんが美味しかったです！
5	学生	是非ブラックラボの見極め方を教えて欲しいですね。
6	いんせー	PIとの飲みが接待のようになっている。気にいられない学生との待遇の差が大きいので、いかにざるを得ないと思う。
7	ねこ	おしほりの水分量がすごい
8	hoge	企業にお勤めの方もいらっちゃって、本セッションが有意義に進むことを期待します
9	JJ	趣味にのめり込むPIを研究させるにはどうすればいいか教えてください。
10	デカ尻侍（切腹）	福岡万歳！（ちょんまげ3本）
11	gene	先生の専門外の実験をやる機会が多く専門外というのもあって助言がほとんどもらえず、自分で調べて一からやるしかないのが辛いです。
12	梅ちゃん	学部学生ですが講師を企業でやった事有ります。修士受かると良いな
13	M1 女	先生と一緒にランチしたいけど、いつも忙しそう
14	ボッチ	学生の頃の研究室選びは消去法で選びました。
15	ざっくす	尊敬できる指導教員の元、自主的に研究させてもらい大変感謝してます
16	YUKI.N	他大学に行くにはwebは大事だと思ってます…
17	モーモー	ラボにホームページがあるんですね
18	パワハラ耐性株	ウェブサイトの更新が滞っているので参考にならないことが多い
19	ナシ	webはウソ、大袈裟なことが多い。カッコいいことしか書かない
20	hoge	ウェブサイトに情報がないのは、忙しすぎてそこまで手が回らないのだと思います。実指導を重視していると思います
21	ルクマン	オーバードクターが多い研究室で怖いです
22	学生	いや、「研究内容」っていう選択肢がないから、「自らの意思」って答えてるんでしょ
23	KM	ホームページにけっこうお金や労力使って作成しても、誰も見ていないのですかねえ…
24	とりっぱー	ホームページ作るのにもお金かかりませんか？
25	ボッチ	ホームページの更新は大変です。
26	院生	Webサイトが数年間更新されていないラボも多いですね
27	修士学生	webの情報を鵜呑みにするのは良くないと私も思います
28	まる	結局webページよりも論文を見たりすることが多い
29	さぶろう	わたしの研究室は学生がホームページを作らされていましたよ
30	おやじ	やりたいことをやるのが一番重要ですね。
31	YUKI.N	ある程度やってきたことは活かしたい。

No	ハンドルネーム	コメント
32	mi	Webに2019の論文が掲載されていないと、更新がされていないのか論文が出ていないのか判断できないので勿体無いとは思いますが
33	D2	将来のキャリアパスを考えて、企業に行きたいなら1度は手技が変わる経験はあった方が良いと思います。視野の広さという点や、大学では味わいにくいスピード感を嫌でも体験できます。
34	おやじ	視野を広げるのは重要だと思います。何でもチャレンジ！
35	ポッチ	ひとつの狭い世界の「常識」だけではなく、研究室をうつることで違う世界の別の「常識」も知る必要があると思います。
36	デカ尻侍(切腹)	理不尽な教授陣には、兵糧攻めじゃ～～(ちょんまげ3本)
37	しゅうし	今回の参加者に学生が多いから、その点も踏まえてアンケート結果を見るべきでしょうね。
38	D2	実験をして成果がでないのと、サイエンスの価値がないのは別だと思います
39	まなぶ	若いうちはしほりすぎず、広い知識を。
40	院生	分野を変えるのはハードルが高く感じます
41	某大学教授	いろいろと考える良い機会でした。世は変換点を迎えています。どの方向に学生や若手研究者を導くべきかビジョンを示す必要があると思います。
42	ラボ替え修士学生	ウェブ情報を信じて入って後悔しています。やりたかったことが出来なかった。
43	M1です。	学部時代の暗い雰囲気から楽しい雰囲気のラボに移って半年です。楽しい日々を過ごしています。前のラボと違い、教授が積極的にディスカッションしてくれるのはとても好きなのですが、教授の頭の回転の速さについていけない時があります。
44	鈴木ファン	満足している人いいなあ。
45	おやじ	多かれ少なかれ不満はあると思いますよ。
46	胡桃坂先生のファン	胡桃坂先生が来られなくなったということで、心配しています。
47	みそしる	2年前からやりたいと思っていた実験を散々否定されて今頃になって突然やろうと言いだされた。一体この2年は何だったんだと言いたい。
48	YUKI.N	サイエンスの雰囲気が無いと研究室生活にも満足できないし、研究も充実しない…
49	ルクマン	オーバードクターが多い研究室なので将来が怖い(不満)
50	院生	研究への興味を失っている。学生の成果で学会に出て、質問に答えられない。悲しい。
51	パワハラ耐性株	この場に来ることができている時点で、実験面である程度充実している気が…
52	ポッチ	研究室がハラスメントの巣窟になっているケースがあります
53	院生	ボスの性格、業績、方向性などは確認したが、ラボメンバーの様子まで確認すればよかったな～と思っている
54	のん	人間関係でしょうね
55	レレレ	話を否定されるようになった
56	学生	「土日来ないなんて非常識」という、パワハラPIは教育者として不適格
57	M1	先生がお金は豊富にあるのに共同研究に躍起になって、企業のスクリーニングをひたすらさせるだけ。研究をさせてほしい。
58	航海	PIの機嫌を損ねないために、PIの研究を行なっている。
59	院生	ラボの中でも指導教員によって満足度が違うように感じます、
60	YUKI.N	42番に同意です。
61	学生	先生「自分で調べてやってください。」
62	ナポレオン	生物という学問自体が結果出すの大変なのでハードワークなのは仕方ない気がしている
63	ナシ	サイエンスをやる気がないPI(終身雇用者)を辞めさせる方法はないのか。やる気を出してくれるのが一番ですが。
64	カンチッチボンバー	やりたいことは山ほどあるが、なかなか今やっている研究と結びつけることが難しい

No	ハンドルネーム	コメ ン ト
65	大学院生	干される学生が多いので怖くて意見できない
66	蛭	ボスがやる気ない。ゼミでも有意義なディスカッションができない。
67	D1	サイエンスをしない研究室は何をしているんですかね。
68	PI	学生の数が多すぎる。学部や修士で出ていくので、難しいテーマを与えられない
69	まる	コミュニケーションは難しい
70	ととと	特許関係の仕事をふられて自分の研究できず、指導も受けられない
71	D2	就活を経て、アカデミアと企業は全く違う世界と感じました。今の生活に不満がある方はぜひ企業を目指してみてください。企業は良い社員を入れないと詰みますので、情報発信に積極的です
72	匿名	先生には満足していますが学生の先輩にどうせ結果でないとよく言われるのはイラつきますね
73	M2	研究者は教育者ではないので、人として尊敬できる人を選ばないとダメだなと感じています
74	クラ吹き	PIの人格がとても重要 学部生だが同期が既に3人も辞めている
75	博士3年目	うちのラボは土曜にセミナー（半強制
76	☆☆☆	PIが論文を読まないの、サイエンスな議論ができない。言うことがいつもコロコロ変わるのはいしんどい
77	助教	木村先生、仰る通りです！
78	とりっばー	任されたと思ってやったら勝手にやったと言われ、一つ一つ確認すると自分です考えろと言われます。
79	おやじ2	勇気を持ってラボを変えましょう。
80	ははは	大学執行部に締めつけられ、大学全体のやる気が低下しています
81	地雷捜索隊	地雷研究室を探すには成果の論文を確認するのがいいですか？
82	スチューデントX	MDの方の意見が聞きたい
83	満足している人	自分のとこのPIは学生が成長できるように、メンタル面も気にかけてくれます。ありがたい事です。
84	ブラック	前いたラボは不登校退学続出だった
85	ポスドク	ラボのホームページってどれぐらいお金をかけるものなのか
86	氏	これ以上ないくらいいい上司です。強いて言うならすこーしだけケチ…
87	ボッチ	PIの人格がだんだんおかしくなってくることもあります。
88	a	HPが更新されてないことが多いかも。
89	かいちょう	もっと違うPIと一緒にラボセミナーやラボを共有することを奨めたい。小生の場合は、岡山大学時代に倉谷滋と阿形清和の教授同士で1つのラボみたいにしたが、学生にも教員にも結果的に良かったと思ってる。学生にはボスと全く違う視点でサイエンスと接しられるのは良い事だし、若手にもグチこぼすには良い環境が提示される。学生が研究の方向性を転換するにも良い環境が与えられる。
90	か	教授との人間関係より教授以下のPIとの人間関係
91	ルクマン	ポスドクが1ヶ月でラボに来なくなりました。意味深
92	P	サイエンスをやる雰囲気がないってどういうこと？
93	しゅうし	発信したくても、PIに学校等の運営に関する雑務が多すぎてHP更新ができないことも
94	カンチッチボンバー	論文投稿が忙しく、なかなかじっくりと勉強できない
95	おやじ	ヒトに強制しても、効果はでません。
96	YUKI.N	研究で必要なら行くけども、なるべく行かなくても良いように実験設計をしている（つもり）
97	ポスドク	自分で考えて行動するスタッフがおらず、PIの考えに軸がないのでディスカッションにもならず、サイエンスをする環境でない…。

No	ハンドルネーム	コメント
98	ボッチ	どういう立場であっても土日祝、深夜も研究室にいないと評価しないPIがいます。
99	パワハラ耐性株	休日は機器が空いているのでありがたい
100	院生	週末は彼女とデートに行くのでラボにはいきません
101	まる	熱心な人は実験の都合が中心に来てるように思う。
102	M1	PIに「〇〇くんは土曜日来ないね」とか言われると、自分も休んだら言われるのかなって思う
103	いん	培養しているとまあ来ざるをえない
104	修士学生	土日は休みたいです。土日出るなら平日早く帰りたい。
105	p	PIが土日に来るので行かないといけない空気になっている
106	D1	長く働く云々というより毎日面倒を見なきゃいけない細胞があるから土日は1時間だけ行きます。
107	レレレ	人が他にいないと集中して進められます。
108	hoge	企業は人件費という概念がありますが、大学は学生ならタダで使える駒ですからね
109	阪大生	土日祝休ませてくれ
110	まる	働き方改革…やりたくてやってる人は良いのでは、と思う。
111	みそしる	幸い土日は鍵が閉まっているくらいのラボなので、プロトコル上の理由以外は行きません。何とかこれでメンタル保っています。
112	MDです	研修医ルートも院生ルートも同じくらい働き方改革が遅れているので…
113	院生	土日は実験の都合上仕方ない時もありますよね…後仕事が捗る
114	鈴木ファン	助教ですけど土日行ってます。ワンオペなので行かないと研究が終わりません。
115	パワハラ耐性株	働き方改革というのは働く時間を制限することなのではないでしょうか。働く際の気持ちの変革にこそ（働くことを楽しむことができるような）にこそ改革があるのではないかなと思います。
116	ナシ	土日は家事、育児があるので、休めません
117	ボッチ	人手不足なので土日にも仕事をしに行きます。
118	えむいち	自分の研究が進むから土日行くことに苦はない
119	とりっぱー	細胞培養のことだけ、しに行きます
120	接待学会	うちのボスは週に2日しかいない
121	学生	木村先生の新学術の計画班の准教授に土日に学生にラボへ来ることを強制する先生いますよね。そんなやつを野放しにしているんですか？木村先生
122	修士学生 K	お金もらってる先生は労働基準法適用で、働いてもお金もらえない学生は労働基準法適用外なの変なの
123	PI	PIは率先して土日休むべき
124	p	壇上の先生方は土日働いてますか？
125	カンチッチボンバー	少し前は日曜日も行ってたのですが、歳をとる毎に心身ともにガタがきているような気がしたので、今はしっかり日曜日は休むようにしています。
126	Sいとう	週末休んでもいいけど、論文でなくて困るのは自分だよ。
127	助教	土日は邪魔が入らないので研究やデスクワークが進む
128	ピーアイ	土日に実験をする必要はないが、平日の時間を有効に使うためには、来た方がいいと思う。
129	学生	夜遅くまでやることを自慢する人がいたのが、ちょっと嫌でした
130	D	飼っている生物によってはしかたないのでは
131	学生ブチョー	私学は土曜も授業や入試、父母会、いろいろあって、休みはほとんどないし、祝日にも授業があります。
132	院生	7/5=1.4 倍働けます

No	ハンドルネーム	コメ ン ト
133	院生	リミットが近い中やった夜中の実験はいい思い出でもあります
134	無記名	PIですが、一人ブラックで働いています。もっと教養に満ちた生活にすべきと考えてます。
135	YUKI.N	PIは大変そうですね本当に。正直将来こうなりたいとは絶対思いません。だからドクター行くのやめました。
136	し	土日働きますが、年に有給を20日取っています。
137	カンチッチボンバー	コアタイムをなくして、曜日や時間帯をみんなバラバラにした方が実験機器が使えてうまく研究が回ると思う。
138	HM2	教授の学校運営の仕事が多すぎます。もう少し研究室のことに力を入れてさせてあげてほしい…
139	M1	先生が大変そうだと話しかけにくい…
140	修士です	PIは出張がめっちゃめっちゃ多い。月に何回も東京に行っててラボにほとんどいない。
141	まる	会議とか、研究以外の仕事が多そう。いつも忙しそうに思う。それでもディスカッションの時間をしっかり取ってくれて本当に有り難い。
142	すあま	やはりお金
143	ボッチ	スタートしたばかりの研究室なので自分以外のメンバーがおらず、忙しくて大変です。
144	ポスドク	PIには指導だけでなく、ラボメンバーをマネジメントする役目もあると考えていますが、どうでしょう？
145	博士がくせい	土日は私生活を優先して、残った時間を研究に費やす。
146	みそしる	学部学生への講義の準備が大変そう。
147	モーモー	研究費を維持するのにPIが動いてて多忙になる、
148	修士	うちの先生は会議をサボって楽しそうに学生と実験しています。
149	あ	研究費の維持が大変になってしまっているのは国レベルの問題でしょうね
150	まる	モチベーションの低い学生を頑張らせるのは大変だと思う
151	PI	学生一人一人に寄り添うと疲れる
152	あたし	日本の研究費予算って少ないイメージ
153	YUKI.N	ひさびさに実験したPIが「やっぱ実験は楽しいね!!」と満面の笑みで言っていて、研究以外の仕事だらけなんだな…と。
154	氏	勉強もできないし勉強しない馬鹿な学生のお守りをするのは教授の仕事ではないと思う
155	マツコ	3週間の教育実習から戻ってきたら、教授が一回り小さくなっていました。忙しかったんですね。
156	おやじ2	法人化の影響でしょうか。雑用が増え続けています。
157	アルハラ耐性株	研究以外の大学のことで忙しそう。大学教授は研究だけを行えるわけではないが、研究の妨げになるような業務までやっているのはどうなのだろう。
158	院生	先生方、主に何の仕事で忙しいのでしょうか？
159	ナシ	研究以外の、技術員や秘書さんかパーマネントでいてくれたら、雑用は減ると思う。理系院卒(修士卒)ぐらいが事務方に勤めたら、強いのに
160	D2	研究の好き嫌いとは？好きというのは、触れた時間や愛着のような気がします。どんな研究でもやっていたら愛着が出てきませんか？
161	ルクマン	博士課程へ進学する人が少ないのは、同世代に比べて経済的に圧倒的に不利になるから。DC1でも月20万しかもらえないし、学費も払わないといけない。
162	苦学生	PIに昼から深夜まで飲み連れ出され研究が進まない 会議をサボって飲みに行く
163	のん	働き方改革が大事なうけど、それ守ってPIなった人がおそろくない。やりたいから自主的にやった結果でしょう。働き方改革は労働に対し報酬を与えないため実には雇用者側の都合を反映したものではないか？そもそも労働に対し報酬が出ない研究者にはそもそも報酬が出ていないことが問題じゃないの？

No	ハンドルネーム	コメ ン ト
164	院生	指導教員の先生がサイエンスが大好きな人なので、その先生の生徒達の QOL は自分を含め高いように感じます
165	M1	先生が 18 時にお昼ごはん食べてるときある
166	しゅうし	科学的興味に基づいて自由に研究できるのがアカデミアのいいところなのに、研究費のことを考えて自由に研究できなくなってる気がする
167	D1	研究以外のしごとが多すぎそうに見えて、研究続けて目指してるのこれなのか～と思って悩んでしまうときも…
168	ポッチ	PI になっても自分のやりたい研究がなかなかできない。やりたい研究は時間を見つけてほそほそとやっています。
169	私大教員	研究室配属では、教員は学生を選べないというのは大前提なんではないでしょうか？
170	D1	学部の頃は 16 時に帰れる研究室が人気でした。
171	僕	趣味で研究をしていると、それはそれで危険では？
172	さ	実験は趣味ってスタンスはよさそうですね
173	YUKI.N	簡単卒論書いて卒業できる「楽な」研究室は人気です。間違いないです。
174	カンチッチボンバー	確かに、いろいろやらなければいけない『仕事』があって、学部生の時と比べて、研究と向き合う時間が短くなっている気がします。
175	博士	楽な研究室選ぶ人はこの学会すらこないでしょうね。
176	あ	自腹で学会行ってたなあ
177	しゅうし	「楽で就活しやすい」を基準に研究室を選ぶ人けっこういますよね。その研究室の PI はかわいそう。
178	修士学生 K	ハードワークでもいいから興味のあることを研究したい。学部生のときは部活と両立しやすいところをえらんだけど…
179	某国立大出身	うちの大学でも研究室を楽さで選ぶ人が大半でした
180	PI a	PI でも時々実験に参加すると、ラボのプロジェクトの進行具合や、担当者の力量が見れていいですよ。
181	ぴ	先生がくまモンみたいでかわいい
182	はかせ	興味が学部生の間に変わることは、いいのでは？しかし、研究の指導をしないといけないのは PI の先生方は大変だとも思う。
183	私大教員	学生数が減っているので、ミスマッチが無いようにもっと戦略的に配属決定したほうがいい。
184	YUKI.N	楽な研究室を求めて来た研究室における研究指導ってどうしたら良いのでしょうか。(M1)
185	M1	学部で就職する人たちには楽な研究室が人気だった
186	まる	モチベーションの低い学生って、なんでその学部に来たんだろうと思う。「大学に行くこと」の意義問われているのかな
187	学部生	コスパがよい、という言葉は学部生からよくききますね…
188	おやじ 2	研究は楽しいですが、管理職は特に楽しいわけではないですね。でも誰かがやらないと。。
189	PI	アメリカの学生はどのような基準で研究室選びをするのでしょうか？
190	院生	ラボに入る前のやる教員を上げるより、入った生徒のやる気を保つ方がむずかしそうです
191	ルクマン	月 30 万の援助があったら今の 5 倍は博士学生が増える (と思う)
192	P	先生との呑み会楽しいです！
193	カンチッチボンバー	院生になると『仕事』が増えてしまうことはしかたがないことでしょうか、、、学費を払っているのもっと研究に没頭したい！ってゆうのは、わがままなのでしょうか、、、
194	修士マン	教授が時々ご飯に誘ってくれて、学生には手の届かないような高級店に連れて行ってくれる。
195	ナシ	ある程度とは、学生の都合の良い時かな？

No	ハンドルネーム	コメ ン ト
196	YUKI.N	ボスとの信頼関係が無いとディスカッションもできないので。ただ、学生側からはなかなか行きづらいので話しかけやすい雰囲気を作って欲しいです（ワガママ）
197	ポッチ	まともに取り合わない PI に対しては学生やポスドクはコミュニケーションを諦めるのでは？
198	助教	PI に挨拶をしても無視されるので話す機会がない
199	しゅうちゃん	普段からディスカッションしやすい雰囲気を作ることはとても大事だと思います
200	学生ブチョー	「楽」の定義にもよりますね。体力的にきつくとも精神的には「楽」に、のびのびと研究をさせてあげられるようにするのが PI の役割です。
201	とりっばー	ボスの話を延々聞かされる時間を、ボスはコミュニケーションとと思っている可能性がある。。
202	JK	毎日ランチをスタッフ全員で取っているラボは雰囲気が良さそうです。
203	みそしる	研究上の根拠のない想像話とか、論文にはないような pitfall の体験談は日常的なコミュニケーションから得やすいと思う。
204	すあま	普段からこういうコミュニケーションとってるとディスカッションとか相談が本当にしやすくなるので大事ですね
205	M1	先生、博多でフグ食べたいです
206	院生	飲み会の時、誰が先生の隣に座るかで、よく揉めます。ネガティブな方で。
207	か	先生との BBQ たのしい
208	いんせー	週に 1 回は飲みに行っている。お金がない。
209	m1	研究室の飲み会は楽しいが、参加費が財布にきびしい、、
210	ポスドク	本質と外れた所でマウントをとりたがる人ばかりなので、あまり一緒に食事はしたくない。
211	おやじ 2	コミュニケーションは全ての基本だと思います。これができるようになるのが、研究室に所属する大きな意味です。
212	ぼすどく	ボスがおしゃべりなのもあって、ほぼ毎日話しています。それを通して個人の事情を分かってくれるのでありがたいです。
213	学生	業績とって行く人がいます。
214	氏	先生焼肉つれてって
215	研究室学生メンバー	予定合えばバーベキュー行ったり TRPG やったりします
216	修士	実験で良くない結果が出ている時も、友だちとして支えてくれるメンバーの存在はとても大きいです。
217	はかせ	付き合いは、所属ラボが、家庭持ちが多いラボとそうでないラボで、全く違うと思うな。
218	YUKI.N	今日も研究室の同期と同じ部屋借りて学会に来ています。毎年分生の夜は一緒にサイエンスを語って楽しんでいます。
219	M1	多国籍軍だから仲良くなり方が難しい
220	みそしる	30 歳代以下限定の教員 & 院生の飲み会がある。もちろん PI にはナイショ話の内容は擦して知るべし、
221	カンチッチボンバー	実験ができるできないに関わらず、一生懸命にする人に時間を割きたいです。
222	いんせー	飲みをコミュニケーションだと言って週一で言っているが、キャバクラやラウンジにまで付き合い合われてお金がかかるのは嫌だ。
223	ポッチ	自分のラボに学生がいないので、協力関係のあるラボの学生に構ってもらっています。
224	学生	PI は学生をどういう風に思っているのか全くパネラーから伝わらない。本音としては学生は無償労働者と思っていますか？なぜ PI の機嫌を我々学生が取らなきゃいけないんですか？我々は労働者ではなく、学生です。PI の論文作成の手ゴマではありません。後、コメントする人、みんな、良い子すぎでしょ。本音で話そうよ。
225	パワハラ耐性株	やるべき研究を差し置いて雑談しているところにいることは苦しい。
226	ナシ	ボスが、アカハラ・セクハラを恐れて、学生とコミュニケーションを取りにくそう。学生はいつも研究の話だけをしたいわけではないだろう。

No	ハンドルネーム	コメント
227	まる	お互いのテーマの話を沢山のメンバーとできるので、色々な見方を知れて楽しい
228	院生	飲み会に行った時に先生が1万円を置いて帰って行って、すごく尊敬したのですが、翌日おつりを請求された時は愕きました。
229	かいちょう	私の場合はボスと先輩との麻雀で人生を学んだ。面子が足りない時に博士論文を書いている先輩が無理矢理雀荘に連れて行かれた上に、ボスが負け始めたら博士論文はどうなった、とプレッシャーをかけていた。人非人の世界だったなー
230	おやじ3	同じ機器、空間を共有する仲間なので、お互いをリスペクトしたいですね。
231	D2	相手の発言は、人格に対する攻撃かサイエンスに対する疑問か切り分けて考えることが大事です
232	M1	228さん うちのPIも、昨日1万置いて帰られそうでしたが、引き留めました笑
233	ほー	いろんな研究室があるんだなあ
234	マツコ	うちの先生は講演の謝礼とかをいつも寄付してくれて、学会の旅費とかにしてくれます。
235	あああ	教授という共通の敵がいるのでメンバーと団結する
236	匿名	若い時は、自分がいいと思った研究室を渡り歩きました。意図せず、キャリア形成に意義あったことに、年とってから驚いています。
237	ピーアイ2	学部学生が、旧帝大系の大学院に進学してしまい、自分の研究室に学生が残らない。残ったごく少人数の学生がかわいそうで、また、申し訳ない気持ち。
238	?	女性少なめの分野だと、セクハラは日常茶飯事。
239	m1	仲が良ければ、とまではいなくても、ある程度のコミュニケーションが保証されていた方が透明性があるっていい研究室だと思います
240	ポッチ	前職の時の学生が訪ねてきてくれます。
241	院生	ラボの後輩が家にやってきて、2人で3時間くらいゲームキューブの格闘ゲームで遊んだのはいい思い出です
242	余談	このセッションで投稿されたコメントのログが後で閲覧出来るようにすると復習しやすそう。
243	みそしる	昨日、留学していた同期の院生(同い年)が帰ってきたのでまた飲もうよとLINEが来ました。やっぱり持つものは同期ですね。
244	PI	大学院進学時に研究室や分野を移ることがもっと活性化した方が良いと思う。しかし、最近ではむしろ逆行して「囲い込み」をする方向に進んでいるように思い、危惧している。
245	そういえば	学生がテストの採点をするのは良くあることなのでしょうか。生徒の単位まで出してるぞ
246	YUKI.N	PIにはなりません、いい先輩になれるように頑張ります。
247	ポッチ	ここのログを後々見返す手段はあるのですか？
248	初参加でした	他ラボのことを知れて、いい機会になった。
249	バワハラ耐性株	こういう匿名で意見できるシステムをラボに導入したらどうなのでしょう。いい方にも悪い方にも転びそうですが。
250	余談	このセッションに来ている方々は改善意欲の高い人だと思うので、このセッションの内容を真に聞かないといけないのは来てない人かも知れない。
251	こみ	コミュニケーションでPIがどんな工夫をしているのかを知りたい
252	あーあ	学生に、旧帝大系の大学院に進学した方が、就職が良さそうだから、と言われた。
253	ナシ	研究室への文句や意見は、面と向かって言って欲しい。匿名じゃ、改善できねーよ
254	余談さんへ	それはそうで、アカハラ横行してたりサイエンスできなかつたりするラボは普通にある
255	絶縁	出身研究室のPIから些細なことで絶縁されました。

## 【大学院の無償化を目指して】

- 日 時：2019年12月4日(水) 11:45～13:00
- 会 場：福岡国際会議場 2階 203
- 参加者：約 240名
- 講 演：安田 涼平（マックスプランク・フロリダ研究所）

今回のランチョンセミナーでは、大学院の無償化（あるいは実質的な無償化）について、日本の現状とアメリカでの例を併せて考えてみました。アメリカの大学院に関して、マックスプランク・フロリダ研究所の安田涼平博士にお話していただいたあとでパネルディスカッションを行いました。また、会場には、文部科学省の相川さんにもお越しいただきました。

学会参加者に行った以前のアンケートで「現在減少傾向にある博士課程進学率は、どうしたら増加すると思うか」との質問に対する答えで最も多かったのは「経済的サポートを充実させる」ということでした。また、会場で行ったケータイゴングによる「大学院の無償化によって、日本人の博士課程進学者が増加すると思いますか？」、「大学院無償化・給付型奨学金制度が適用されたら、迷うことなく博士課程に進みますか（進みましたか）？」との質問に対する答えも7割以上が「はい」との回答でした。分子生物学会の参加者が対象なので、研究意欲のある学生・研究者が母集団であることを差し引いても、これらの結果は、経済的サポートが博士課程への進学に大きく影響するということを示唆しています。その一方で、この母集団の中でも上記の質問に「はい」と答える割合が7割強に留まった（つまり、3割近くが「そう思わない」という回答であった）ことは、大学院

博士課程を修了した後に必ずしも明るい未来が見えないこと、あるいは、現在の研究室が必ずしも自分の興味や研究スタイルとあっていないことが要因であるとも考えられます。パネリストのコメントにもあったように、大学院の無償化（経済的サポート）、大学院の教育内容の充実、その後のキャリアパスの3つを一体で検討・改善していく必要があると思われます。

また、大学院無償化した場合に、大学院生の質も懸念されます。安田先生がアメリカの大学院事情について説明して下さいましたが、優秀な大学院生を集めるために（教育、研究、経済的に）優れた環境を提供しているとのことでした。大学院は実質的に無料であることに加え、給付型奨学金や給与が支払われるのが普通とのことでした。当然、選抜は厳しくなり、日本で定員を埋めるのに必死になっている状況とは異なっているようです。日本においても、実質的な授業料無償化や給付型奨学金・RA制度などにより博士課程の待遇改善が進めば、研究意欲があっても経済的な理由で進学を断念する学生の進学を促すことができると考えられます。また、その財源をどうするのかというのは問題についても議論がありましたが、大学の資金活用や研究費の規模が異なるため、アメリカの方式をそのまま日本に導入するのは無理がありそうです。日本の大学も変わる必要はありますが、それ以上に、次世代を担う人材を国として育てるといった政策も重要であると思います。

ランチョンセミナー後には、そこでのディスカッションを受けて、キャリアパス委員と安田先生が文部科学省の相川さんと意見交換を行いました。

（文責：座長・木村 宏）

## 〈アンケート〉 集計結果（四捨五入しています）

### 【問1】 あなたの年齢は？

① 24歳以下	26	21.3%
② 25～29歳	14	11.5%
③ 30～34歳	10	8.2%
④ 35～39歳	6	4.9%
⑤ 40～49歳	28	23.0%
⑥ 50～59歳	28	23.0%
⑦ 60歳以上	10	8.2%
計	122	100.0%

### 【問2】 あなたの身分・職階は？

① 学部学生	9	7.4%
② 大学院生（修士）	21	17.2%
③ 大学院生（博士）	5	4.1%
④ ポスドク	9	7.4%
⑤ 大学教員（助教・講師・准教授）	32	26.2%

⑥ 大学教員（教授）	30	24.6%
⑦ 研究員	2	1.6%
⑧ 主任研究員・チームリーダー・室長以上	5	4.1%
⑨ 企業	4	3.3%
⑩ その他（研究センター長）	1	0.8%
⑩ その他（特命教授）	1	0.8%
⑩ その他（記述なし）	2	1.6%
※ 未記入	1	0.8%
計	122	100.0%

**【問3】 このセッションを何で知りましたか？（※複数回答可）**

① 学会ホームページ	33	24.1%
② 年会ホームページ	49	35.8%
③ 会報	3	2.2%
④ プログラム集	31	22.6%
⑤ ポスター	4	2.9%
⑥ 会場内の広告	12	8.8%
⑦ フェイスブック	0	0.0%
⑧ クチコミ	2	1.5%
⑨ その他（ランチョンセミナー整理券配布デスク）	1	0.7%
※ 未記入	2	1.5%
計	137	100.0%

**【問4】 このセッションを開催した時間帯はどうでしたか？**

① ランチョン形式でよかった	116	95.1%
② ランチョン以外の時間帯がよかった（夕方・夜）	2	1.6%
② ランチョン以外の時間帯がよかった（記述なし）	1	0.8%
※ 未記入	3	2.5%
計	122	100.0%

**【問5】 前半の講演はいかがでしたか？**

① とても面白かった	72	59.0%
② まあまあ面白かった	39	32.0%
③ 普通	7	5.7%
④ あまり面白くなかった	0	0.0%
⑤ つまらなかった	0	0.0%
※ 未記入	4	3.3%
計	122	100.0%

**【問6】 後半のディスカッションはいかがでしたか？**

① とても面白かった	48	39.3%
② まあまあ面白かった	40	32.8%
③ 普通	14	11.5%
④ あまり面白くなかった	2	1.6%
⑤ つまらなかった	0	0.0%
※ 未記入	18	14.8%
計	122	100.0%

**【問7】 今後このような試みを続けるべきだと思いますか？**

① 是非続けるべき	101	82.8%
② 続けるべきだが方法を変えた方がよい	14	11.5%
③ やめた方がよい	0	0.0%
④ わからない	1	0.8%
※ 未記入	6	4.9%
計	122	100.0%

**【問8】 このセッションに関する感想をお聞かせください。**

- ・海外の状況を知ることができて、良かった。日本も修士学生に優しくなってほしい
- ・アメリカなど、他国ではかなり充実していることを知ってびっくりした。
- ・アメリカの状況について理解出来た。やはり国内で無償化は難しいと思う。
- ・米国の話はよくわかった。そのうえで、日本は？どうするのか。
- ・彼我の違いの認識は大切。次は財源の問題。
- ・日本では米国のような博士の企業就職や、企業からのPI転身が、シームレスになってないことから、大学院無償化にしてもしょうがない。
- ・科学に対する考え方が日本人は欧米人と異なる点がありそれも関与しているかもしれない。大変考えさせられるテーマでした。学部生の学費の問題もある。これは米国でも問題になっているのではないかと→米国のやり方をそのまま導入するのは全うではないのではないかと。国立大学はそれ以外に文科省にdependしない研究費運営費の獲得という問題もある。(企業との提携、企業との寄附金連携)
- ・日本と米国では大学院入学時の研究力がちがうことにもっと焦点をあててもよいと思いました。米国の大学院志願者のトレーニングシステムに興味があります(現状では日本の修士1年は教育している感がつよく、米国と同じレベルの給与は難しいと思います。一方、欧米のポスドクの一部は実験しなくて困るとも聞きます。出口が実は甘いのでしょうか…)
- ・留学中にも感じていたが、米国と日本の温度差を再確認した。研究者育成に関して、次世代に継続できるように真剣に考える必要があると思った。
- ・日本が全体的に科学を重視していないのではないかと疑問に思った。良い学生を良い環境で育てて、その学生を活かせる社会に出来るとより良い。
- ・前半の話について、MDの話も欲しかった。
- ・後半のトークがおもしろかったが、なかなか結論は難しい。
- ・昨日より雰囲気重い感じだったが、それだけ切実な問題だと思う。知らない事も多かったので、考えさせられました。
- ・様々な立場からの考えや、大学による制度の違いが大きいことがよくわかった。
- ・議論の価値があるいい内容だと思いました。
- ・引き続き考えていきたい。
- ・真剣に考えるべき問題だと再認識させられた。
- ・同じような問題意識を皆で共有できてよかった。
- ・無償化は必要だとあらためて思いました。うちの大学でも授業料の引き下げは常に議論しています。
- ・学費無償化は重要。まずは実施して、問題点を明確化して問題を1つ1つ解決して、前進してほしい
- ・セッションだけでなく、具体的に行動に移してほしい。
- ・このようなセッションを毎年実施しても問題は解決しない。早くアクションをおこなえば日本の学術は崩壊するだろう。優秀な人材は確実に海外の大学院に流れるだろう。
- ・どうしても財源、国といった大きな組織を動かす必要がある議題なので、研究者が団結して訴えて行く、具体的に行動していく必要がある気がします。
- ・大半の議論は、どこかで聞いた内容だった。大学院教育の受益者は国というコメントは、学会として国に訴えていく上で重要な観点だと思った。
- ・キャリアパス委員の皆様にはぜひ国への働きかけを頑張ってくださいたいです。
- ・アンケート結果などは(本日のモバイル)文科への提言などにまとめ、貴重な資料としてお使い頂ければと思います。基金について日本ではどのようなシステムを構築出来るかなど考える必要性を感じました。
- ・「提言」としてまとめられて、関係省庁に提出して、財政的な措置へつなげていくことが重要と思う。もちろんそのためのコンセンサスづくりが必要
- ・国の制度の違いを開けたのは興味深かった。本気で制度を変えようとする意気込みは感じられなかった。
- ・今後もこのような試みを是非続けるべき。無償化が実現したら続けなくてもいいのかもしれない。大学院生教育、キャリアパスについては引き続きやってほしい。
- ・文科省、財務省の役人、政治家にパネラーになってもらい意見を聞きたい。
- ・文科省の方も交えたパネルディスカッションも今後ききたい
- ・国の根幹である科学の人材を育成する事は大変重要。国の担当者、政治家にも答申を出す。セミナー参加を促す。
- ・登壇者が偏っていると感じました。今日のテーマであれば、文科省の方や大学院生も入れるべきだと思います。
- ・全体として面白かったが、無償化には問題もある。反対派の先生もパネリストに入れてほしい
- ・企業側のパネリストもいた方がよい。
- ・会場にいる学生の生の声を、もっと聴きながら進めた方が、より効果的だと思う。
- ・会場の意見をもっと取り上げるようにした方がよい。
- ・学生側も登壇すべき。目的をはっきりすべき(意思確認なのか、方法の検討なのか)。
- ・大学院に進学に決めた時は迷いはなかったが、卒業近くになって自分の進路の不透明さに不安になったのが思いだした。
- ・私も、院生になりたいと思ってはいたけれど、その時の生活費とかどうしようとか、学振をとれなかったらどうしようと思っていたので、このセッションをきいて、いつか無償になるといいなと思いました。
- ・大学教員の給料がもっと上がるか、博士の間だけでも給料が出れば(学振以上)、博士課程進学も考えました。
- ・博士卒業後のネガティブなイメージをなくす努力も必要だと思う。日本では逆に就職しにくくなる。アカデミックなポジショ

- ンが少ない。コネありきの世界。自分も博士卒業後の方が難易度が高そうで修士卒で就職しました。
- ・大学院生のサポートは重要。ただ大学院に行かなくなっている理由はキャリアパスの問題の方が大きいのではないか。
- ・大学院生の質を向上するために、無償化を考える。そのための人材確保のために無償化する。
- ・大学院無償化と生活費補助（給料）は違うのでは？給料方式にするべき。授業料無償化は学会参加などに反映されない。これは成績などにひもづけてもいいと思う。
- ・博士前期課程（M2年間）と後期（D3年間）は分けて議論しないとイケないのでは？M2年で何もしないで出ていく学生が一定数いて、それらも無償化するのは問題。
- ・大学院の入試を難しくすればモラトリアムな大学院生を減らせると思いました。大学院生も授業料を無償化すれば、より学生が意識をもって研究に取り組むと思いました。さらに給料ももらえれば良いと思います。（学生の研究への自覚を高めるため）
- ・博士号取得者の処遇をあげることが重要。そもそも文科省の役人はDr号をもつべき。
- ・PDに未来がないことが大きな問題。ポストドク支援も併せて必要。
- ・国立教員はやはりあぐらをかいている印象があります。しかも文科省任せな意見もいかがかと。学部学費を上げて院に回す。教員数を減らす、給料減俸くらいの自助努力が必要だろう。
- ・企業は多くの博士を採用してますよ。条件も良い。「企業がとってくれない」という前提で話をしているのが納得できなかった。
- ・ぐちからの脱却を
- ・想定範囲内で少しものたりなさを感じた
- ・昔からいわれていたことです。何も変化していないことが気がかりです。
- ・大学院教育に対する（自身の）スタンドを変える必要があると感じた。
- ・応用研究に傾いたとしてもベンチャー企業等の大学自体が収入を得る仕組みを進めていくべきだと思う。そこから基礎の重要性も議論されるのでは。
- ・学生や教員などの様々な意見を見れるシステムが良かったと思う。
- ・生の声を聞けるのはとてもよい
- ・会場からコメントが出せるのが非常に良かった。
- ・リアルタイムのコメントが出来るのは良かった。
- ・ネット掲示板みたいでよかった。
- ・オンラインでコメントしました。予想よりおもしろかったです。
- ・おもしろい取り組みです。
- ・面白かったです。
- ・大変良かった。
- ・リアルタイムで意見が出てきて、おもしろい。
- ・アクセス URL を常に掲示するべきだと思います（すぐに見えなくなって書き込めません）。（コメントのリアルタイム表示はとてもよいと思ったので）
- ・コメントに「いいね」する機能が欲しいです。
- ・サイエンスの世界で重要な問題であると思うので、次回もこのような会をもうけるべきだと思います。

#### **【問9】 来年以降のセッションで取り上げて欲しいテーマがあればお教えてください。**

- ・引き続き、同じテーマで
- ・新しい話題もあると思いますが継続的にやってもよいテーマかと思えます。
- ・継続して最低3年間を行うのが良い。
- ・今回の結果に対する文科省の返答
- ・無償化に向けたアクションプランを示す。
- ・大学院無償化した場合の大学院入学前の学生トレーニング方法
- ・パネリスト、座長が言われるように、大学院の無償化をしてどうするか。という vision が必要と思われました。
- ・「日本の大学院生の評価システム」これ、あって無いのも同然。所属研究室の教授の顔色を見て評価しているだけだと思う。
- ・大学院の定員など
- ・博士進学、理由は何ですか
- ・大学院生の就職口について
- ・院卒業後のありかた。企業だと、新卒一括採用をやめ通年採用にするなど。
- ・企業の担当者がドクターに対する考え・意識
- ・博士取得者の就職について。企業の人事担当者にも参加してもらって
- ・博士課程進学後のキャリアの安定について
- ・Ph.D の就職をどうするか。
- ・キャリアパス（学位取得後の進路）
- ・博士に進学したら、結婚タイミングはいつですか
- ・研究者とライフプラン（結婚、出産、子育て等）を考える場をもって欲しい。
- ・男性のワークライフバランス。なぜ男はワーク100%許されるというかほめられるのか
- ・女性のキャリアパス（ポストドク～PIの女性比率を上げるには）
- ・夫婦、家族をもつ中での研究者生活
- ・少子化と大学教員ポストの確保
- ・大学でのポストドクポスト・給与について
- ・アカデミックのポスト数
- ・日本における博士の地位向上
- ・大学院の質の向上
- ・大学院（博士）の教育システムについて
- ・大学院の教育プログラム
- ・研究以外の分野のプロの方々も交えて議論すると良いと思います。（スポーツ、音楽などなど）
- ・生命科学の世界での議論ではなく、工・農・薬・医、あるいは文系も含めた意見なり現実をまとめる
- ・科学（生物学）を正しく（一般に）発信していくには

- ・ 科研費の充足率が非常に低いことについて。
- ・ 大学関連予算、研究予算
- ・ 海外への道 ・ アカデミア

**【問 10】 本年会での属性調査（添付資料）をご覧になった感想をお聞かせください。**

- ・ オーガナイザーの女性比率を上げるべき。
- ・ オーガナイザーの女性比率も同じになるといいなと思いました。
- ・ 以前に GRC で参加者の男女比が 6:4 であることは問題で 5:5 にするように対応すべきとの議論がなされたことを思い出しました。約 30 年前です。わが国では依然として苦戦していると感じました。抜本的な対策を待望しています。
- ・ 会員の男女比が偏るのはしかたないが、WS スピーカーなどの男女比は会員の男女比にかかわらず 1:1 になることを目指すべきでは？
- ・ 女性比率が低いのは非常に問題だと思います
- ・ 定着するまで工夫がいると思う。WS に女性オーガナイザーのわくを作る。声かけ
- ・ もっと女性のクラスメイト、同僚がほしいです。
- ・ 上位職に女性が少ないことを反映していると思う。キャリアが中断した人に対する支援が必要。
- ・ 性差がこのまま無くなることを願う。
- ・ 予想どおりなので…この改善を急ぐ
- ・ 10 年前、20 年前との比較を見てみたい。5 年後の想定とか。
- ・ シニアが多い。
- ・ 研究したい人は男女関係なくできるようになってきているのだなと思いました。
- ・ 女性研究者の支援は確かに大切であるが、ただ女性とあるだけでは意味がないと思う。
- ・ 妥当なアンケート結果と思います。国に頼る時代は終わった気がしました。
- ・ 女性スピーカーは年々増えている印象があるがどうなのか
- ・ 勉強になった。
- ・ good
- ・ コンパクトで見やすくいいと思う。

**【問 11】 その他、ご自由にどうぞ。**

- ・ 時間は 1 時間で十分だと思いました。
- ・ もう少し時間が長くても良いと思った。
- ・ 英語訳もあればいいかな。
- ・ ランチのお弁当は汁なしのほうが良いと思います。今日のお弁当はこぼれてしまいましたら大変です。
- ・ ありがとうございます
- ・ 有意義でした。
- ・ 昨日の研究室を選ぶセミナーもとてもおもしろかった。このようなセミナーを毎年続けてもらいたい
- ・ 毎回、キャリアパス委員の方々ありがとうございます。
- ・ 胡桃坂先生の復活を願う。

**〈ケータイアナライズシステム〉**

**〈アンケート〉 集計結果（四捨五入しています）**

練習設問：皆さんの属性について教えてください。

・ 学部学生	7	5.4%
・ 大学院生（修士）	32	24.8%
・ 大学院生（博士）	11	8.5%
・ ポスドク、助教、講師、准教授、研究員等の非 PI 職	22	17.1%
・ 独立助教・講師・准教授、主任研究員等の junior PI 職 （非テニユア・テニユアトラック）	7	5.4%
・ 教授等の PI 職（テニユア）	36	27.9%
・ 企業	1	0.8%
※未入力	13	10.1%
計	129	100.0%

**設問 1：あなたの（所属する機関・学部の）大学院では学費免除の（または学費分を補填するような）制度はありますか？**

・ ある：100% 免除が全員にある	6	5.3%
・ ある：部分免除が全員にある	9	7.9%
・ ある：100% 免除が一部学生にある	39	34.2%
・ ある：部分免除が一部学生にある	38	33.3%
・ ない	10	8.8%

・知らない	12	10.5%
計	114	100.0%

設問 2：大学院の無償化によって、日本人の博士課程進学者が増加すると思いますか？

・はい	81	71.1%
・いいえ	16	14.0%
・どちらとも言えない	17	14.9%
計	114	100.0%

設問 3：大学院無償化・給付型奨学金制度が適用されたら、迷うことなく博士課程に進みますか（進みましたか）？

・はい	72	64.3%
・いいえ	11	9.8%
・変わらない	25	22.3%
・その他	4	3.6%
計	112	100.0%

設問 4：大学院の無償化により、大学院生の質はどのように変わりますか？

・上がる	37	33.3%
・下がる	12	10.8%
・上下の幅ができる	55	49.5%
・その他	7	6.3%
計	111	100.0%

設問 5：大学院の無償化はメリットが大きいですと思いますが、あえてあげるなら無償化することのデメリットは？

・ない	18	16.2%
・大学の運営費が減る	17	15.3%
・やる気の無い学生が増える	29	26.1%
・こしかけの学生（簡単に辞める学生）が増える	38	34.2%
・その他	9	8.1%
計	111	100.0%

設問 6：無償化が進学者全員ではない場合、対象者を選考する際の条件として何が最も重要と考えられますか？

・世帯の収入（家計の条件）	29	26.6%
・学業成績	24	22.0%
・申請書の評価	50	45.9%
・その他	6	5.5%
計	109	100.0%

設問 7：大学院の無償化により、大学院生の責任（進捗状況・研究成果の報告義務等）が課せられることは？

・良い	97	88.2%
・悪い	8	7.3%
・どちらでもない	4	3.6%
・その他	1	0.9%
計	110	100.0%

設問 8：大学院無償化は海外からの留学生にも拡大するべきだと思いますか？

・拡大するべき（日本の大学院の国際競争力を高めるから）	48	43.6%
・拡大するべき（公平にするなどその他の理由から）	16	14.5%

・一定の基準を設けるべき	38	34.5%
・すべきでない（日本国民の税金でまかなうものだから）	6	5.5%
・すべきでない（その他の理由から）	2	1.8%
計	110	100.0%

設問 9：大学院無償化を日本ではどのように進めるべきだと思いますか？

・国策として一律全員を対象にすすめる	39	35.8%
・国策として一部（優秀者、低所得世帯など）を対象にすすめる	45	41.3%
・大学院ごと、研究室ごとに教員が努力する	4	3.7%
・学振 DC などを拡大したうえで、大学院生が個別に努力する	19	17.4%
・その他	2	1.8%
計	109	100.0%

設問 10：大学院無償化の制度を定着させるために、最も努力が必要な人・団体は？

・大学教員	12	11.0%
・大学院生・大学生	11	10.1%
・企業	10	9.2%
・文部科学省	67	61.5%
・その他	9	8.3%
計	109	100.0%

コメント一覧

No	ハンドルネーム	コメント
1	tag	企業が博士号取得者を、もっと採用すべき
2	大学院無償化は諸刃の剣	[pros] やる気ある学生が心理的経済的負担を減らせる。 [cons] 就職できなかった学生が人生の選択先送りに利用する危険性（先送りすると、ますます状況が悪くなることが多いのだが） 無条件無償化を避け、動機と意義を訴える申請書類が不可欠なのは。
3	某大学教員	大学院進学の詳細なメリットを示す必要があると思います。
4	こけこっこ	ドクターを増えない背景には教育費、科研費の削減だけでなく卒業後のポストの無さや結婚が遅れるなど様々だと思います。まずは教育費の無料化とポストを充実させるために政府に積極的に言うことがいいと思います。修士でも十分生活できるのにリスクをかかえて進学する人はなかなかいないです。それならば優秀であっても修士で卒業する人が多く出てくると思います。ドクターが増えるといいなと思います。
5	氏	奨学金でなくても、研究に準ずるアルバイトなどをさせて学費や生活費を賄えるようにすべき
6	かいちょう	OISTでの大学院は無償かつ給料が出て寮まであるのに日本の若者は行かずに海外からの若者が行っている現実がある。これは、授業料が無料かどうかの問題以前に今の日本の若者に研究者を目指す憧れがないのが問題であることを示唆している。われわれの頃は修士で結婚して授業免除を受けるとともに塾の講師をしながら研究者を目指す輩が多かった。博士の学位を取得しても職はなく、研修料を払ってオーバードクターをする先輩達がほとんどだった（そんな生活してでも研究者になることに憧れていた）。
7	修士2年	私自身、博士に行くのを学費を理由に断念した部分もあるので、仕組みが変わってくると良いなと思います。
8	あるPI	グラントシステムと研究に対する国の意識が違いすぎます。
9	Kiyopy	税金、寄付金を投入するための広報活動が必要
10	ルクマン	そもそも、なぜ日本が大学院生に十分な援助をしないのか、理由を知りたいです。
11	名無し	基礎研究の積み重ねで生活が成り立っている事実を発信、広報して国の政策に反映できるようにする。
12	PI	学生への経済サポートは絶対に必要です。ですが、厳しい selection が極めて重要です。

No	ハンドルネーム	コメント
13	[素]	企業が博士をもっととるべきという意見もあるが、多くの企業は博士に給料分以上の働きをさせるノウハウがないのだろう。博士の活用方法とセットで売り込めると良い。バイオ系でうまくいっているベンチャーも少しずつ出てきているので、博士自身が研究や知識技術と「スタートアップ」などの制度を活用して積極的にベンチャー起業する道も選択肢にすると良い。
14	cam	企業からの支援も必要
15	名無し	企業との共同研究で、院生を奴隷のように使おうとする動きを見たことがある。そもそも学生を大事に扱うような意識を、PIだけではなく助教レベルでも持たなければならない。学生は無給奴隷ではない。
16	しゅうし	アカデミア周りの人は無償化が必要と思ってる人が多いと思う。国レベルで支援できないのは、その他、大多数の国民の理解が得られていないからなのでは。
17	YUKI.N	学費免除については国立がそれなりに頑張ってますよね。学費は国立とは思えないくらい高いですが。
18	無償化しましょう	私は学費全額免除システムに恵まれていて、研究に専念できます。研究は世界に進歩させる必要な力です。大学から卒業した後、進学という選択肢は迷わなく、進路として選べば、世界はより良い将来へ進みます。
19	NT	奨学金を設けて、人を増やしたとしてもその増えた人員を教育するだけの力（研究資金、教育ノウハウなど）がないと思う。プラスで、大学院入学のセレクションをきつくして、入学した人をしっかり育てる環境作りが必要。
20	キャリアパス委員会サポーターの若手	博士課程を無償化することは、大学が責任をもって博士号の質をきちんと高めることとセットで行われる必要がある（博士号の価値を下げてしまうような学生を輩出しないように大学としても責任を負う必要がある）。そして、大学院を途中で辞めることを社会が受け入れる、また博士号取得者の活躍の場を広げるためにも、社会全体の流動性を高めることが必要。これには終身雇用なども含めた社会全体の仕組みを変えていく議論が必要だが、若者から見ると、既得権益層・高齢者が基盤にある日本社会を変えていくことは簡単ではないように感じる。
21	国立大	国立大は大体そうだが、学振もらったら独立家計になって学費免除になるのが意味がわからない。もらっていない人は学費払うのに。どっちを免除にすべきなのか。
22	PI60 歳目前	日本の今日の大学や科学は、子弟のために高額授業料を納め、子弟の生活費を払って子弟を大学そして大学院に通わせている父母の支持とその経済的負担に支えられています。その父母の負担を軽減するべく営々と積み上げられた制度の（日本学術振興会の特別研究員事業など）の一層の拡充が、施策の筆頭に来るべきです。採択件数を増加させるために、この制度への割り当て予算総額を増やすことです。しかし財務省の壁を越えるには、現在のJSPSや文科省のレベルではできないことです。ノーベル賞受賞者の先生方に文部科学省の大臣になって頂き、ご尽力して頂くしかないのでは。
23	Kiyopy	企業にとっても魅力的な博士課程修了者を大学院が送り出せていない点を教員は反省すべき
24	博士	学振は決して好待遇ではないが、それが学生の待遇の上限になっているような現状はいかがなものか。福利厚生家賃補助なしで実質16万円は生活保護未満。
25	あ	博士進学も視野に入れているが、学部から現在の修士までで奨学金を借りていて返済が不安になる。経済面での支援も必要では無いか。
26	YUKI.N	博士になって頑張ってる研究してPIになってアレ（今の指導教員のブラック労働）かと思うとちょっと…
27	修士	日本と海外における研究室の環境（勉強に専念出来るかどうか）や博士号取得の基準に大きな差があるなど感じました。そもそも日本の博士号に海外と同等の価値はあると見られているのでしょうか？
28	あるPI	学部1、2年生にアンケートすると、三分の一ぐらいは将来研究者になりたいと答える。彼らの夢をもっと実現できるようにしたいものです。
29	PI	大学院生の数を単純に増やす事を目的とするのではなく、優秀な（研究にむいた）学生を増やす事がたいせつです。全体的な数は、減っても良いのでは。
30	NT	ネガドクはいらない。
31	氏	高校生や学部1、2年生にきくと研究者になりたいと言う人は多いが、現実を理解していないだけでなく、そう言う人に限ってバイトに勤しんでいたり勉強に真剣に取り組んでいない。私の大学の特徴がもしれないが…
32	YUKI.N	学生が月に4.3万円稼ぐって大変なんです。
33	プロフ56	博士課程に進んでしまうともう後戻りができないという意識が強くなるので、経済的問題を解決したとしても、逆にその感覚が強くなるのでは？学位取得後の道筋を十分に選択できるしくみが先決。
34	ポスドク	無償化で進学希望者が増えて、セレクションしないといけない状況になれば質は上がると思います。単純に大学院生の数が増えるだけだとダメでしょうね。

No	ハンドルネーム	コメント
35	学生	無償化と同時に定期的な研究に関する審査とアドバイスなどの機会をつくり、気を抜かないようにしながら応援する。今自分はバイトの時間が障害になっている。
36	日本頼むよ	国レベルでやるには、一般の方に理解してもらえるように、必要性を発信していくことも大切だろう
37	企業さん	奨学金という名の学生ローンを借りなくて済み、学費が無償になれば、第一のハードルが低くなるのではと思います。まずはこれが重要です。借金がないのはその後の人生にとっても重要です。第二のハードルは博士取得後の進路がせまい点です。残念ながら、多くの日本の企業は博士を必要としていません。バイオ系ですと大手製薬企業を除いて、必要としていないのが現状です。大手製薬への就職はアカデミアで生き残るのと同じくらい大変でしょう。ベンチャーなら多少ハードルは低いですが、ベンチャーは会社の生き残り自体が大変です。基本的に、日本ではアカデミアにしる企業にしろ、優秀な人材を安く雇いたいという本音があります。無償化になれば嬉しく思いますが、ならないんじゃないかな、と思います。
38	わかて PI	リーディング大学院プログラムなどで、給付型奨学金が出ていたときには、国内外から優秀な人材がリクルートできていた。プログラム自体はまだ続いているが、お金がなくなり、受験生は激減し、学生のレベルも著しく下がった。卓越大学院制度も一時的で、かつ競争的資金であるので、もう少し安定したサポート制度が求められる。
39	博士	学振は決して好待遇ではないが、それが学生の待遇の上限になっているような現状はいかがなものか。福利厚生家賃補助なしで実質 16 万円は生活保護未満。
40	ある PI	大学院課程の入り口だけでなく、途中でバリアは必要
41	non	大学が国からお金をもらおうと頑張るのではなく、自分達でお金を稼ごうとする起業家精神も大切なポイントの1つであるように思います。
42	あ	無償化すると、モラトリアムを獲得する目的で進学する人も増えるのでは。
43	Kiyopy	税金を透過させるには、学生が投票に行くこと。投票先となりうる政治グループを送り出すこと。
44	ルクマン	博士課程に進学して、しっかり研究できる優秀層の人は、企業に就職した方が経済的に裕福になる可能性が高いのでリスクをとらず、就職してしまう
45	[素]	進学希望者が少ないことについて。トップクラスの研究者の年収が、スポーツ選手はおろか、商社やNHK職員と同等以下の給料というのはやるせない。その程度の社会的評価ということなのか、名誉にお金は要らないということなのか。
46	PI60歳目前	成果報告は最低限の労力で済むように。日本では何でもかんでも「報告書！報告書！」で、関係者全員が消耗するだけで不毛。誰も読まない報告書など不毛。
47	私大教員	文科省はきっと金が無いので、国公立は今ままで行きましょう。私大がまずは独自に無償化始めましょう。私大が研究を引っ張る時代です。
48	国が…	増税しても公約と違うことにお金を使うからもうどうすればいいのやら…選挙で勝つしかないんですかね…
49	YUKI.N	世帯の年収も考慮すべきかとは思いますが、世帯の年収が低くて学費免除になったのに全然研究しない人を見ると、私の方が頑張ってるのにな…となります。何故か昼飯も私よりいいもの食べてるし(僻み)
50	名大生	名大では企業との共同研究で学生に企業から給料を払わせる制度を開始しつつある。学振やRA以外のalternativeな選択肢を作ることも大切。特に企業との共同研究の場合は、特許が絡むことが多く学生が無給の上に被害者になるケースが多すぎる。全ての大学でこれを始めるべき。
51	。	身の丈にあった教育しかできない状況どうにかしたい。もっと伸びたいです。
52	Kiyopy	学生を無償の労働力だと思っている生物系ラボが多数ある中で、「世界の中でレベルが高い」という自己評価は、学生から見ると違うのでは。
53	ns	お金を出す人に登壇して欲しい。タイムリーな文科省のコメントを聞きたい
54	NT	財源が国からの補助金のみでは、大学が国からの補助金をもらうために、大学が政府の顔色を伺うような教育プログラムを作る恐れがあるのではないかと。多角的な財源の確保が必要だと思う。
55	ぴーあい	授業料の無償化、プラスアルファのサポート、どちらも最低限のセレクションをパスしたら全員が対象にならないと思ったより進学率増えないと危惧する。サクセスレートが今の学振より高く半分くらいとかだとしても、優秀な学生ほど落ちたときのリスクを考えて二の足を踏むだろう。(博士を考えてた修士学生に学振取ろうよ、と話したときの反応がそうで、進学辞めたことがある)
56	学生ブチョー	奨学金採用に対する審査や面接をしている私大の教員です。学部生にしてすでに1千万円の借金をしている学生もおります。採用して奨学金を貸すのは正直簡単ですが、その後の返済が可能か不安になり、自己破産とならないようにあえて不採択にすることもあります。無償化が理想ですが、せめて無利子の奨学金をもっと潤沢にしたいし、免除制度を復活させて欲しいと思います。

No	ハンドルネーム	コメント
57	M2	どの大学でも学部、修士の時点で飛び級が設けられて欲しい。その結果、無償化への負担額も減り、学力向上も望める。また、博士への進学、企業の採用率の向上も見込めるのではないかと。
58	PI	大学院無償化は定員減とカップルさせて資格認定を厳密にする事で質の向上を図る。支出の総額がさほど変わらないようにすること。無給の労働力を期待する研究室にはそぐわないだろう。海外の学生にも門戸を開いて競争率を上げることで質の向上を図るべき。
59	助教	博士まで奨学金を借り続けると1000万円を超える人もいる。学費だけでなく、生活費を援助すること、現在返済している人にも免除制度を拡大するべき。
60	PI	ムーンショットの予算を全額学振DCに回せば3年間くらいは申請者100%採択できるはず。
61	共同研究	企業がスポンサーになりやすい分野なりにくい分野があると思うので、企業頼りになると研究分野間で格差が出そう。
62	PI	議論を聞いていても、現実問題としてどうやって具体的に無償化の原資を確保するのか、見通しが見えない。
63	YUKI.N	教員の仕事をこれ以上増やしたら、学生の面倒一切見れなくなりますよ。
64	助教	アメリカの学会のように学会の前後で組織的に政治家や財務省、文科省などに陳情にいったらどうか。
65	名無し	オリンピックをやってなければ10年くらい日本全国の大学院無償化できてたのでは？
66	PI	博士（後期）課程の無償化は、人材育成のために効率的。優秀な学生の取りこぼしを少しでも減らすために有効（自身の納得、親の説得）。フェロシップや給与の議論とは分けて、まっさきに実現すべき。メッセージ性も高い。今の博士進学率では学費収入も微々たるものでは。様々な改革を、まずは博士（後期）課程の無償化から始める。
67	オラ	日本の企業は博士号取得者を使えるレベルの事業を扱っているところは多くない。外資系などに目を向ければ、活発に採用してるところも。国は企業を甘やかすのをやめて、真に競争力のある企業を育てる努力をして欲しい。
68	[素]	某地方団体が大金をかき集めている「ふるさと納税」のような仕組みで「アカデミック納税」ができないか？ 寄付者への還元は何にしたら魅力的か、博士を目指す頭脳を絞ってみよう。
69	か	学生が頑張るの、留学をするくらいしかなさそう
70	PI	阿形先生を国会に送り込む
71	ルクマン	オリンピックはオリンピックで重要でしょう。
72	端溪	国際競争力を高める上で、無償化は大切だと思うが、現実的に財源をどうするか、大学の研究費を減らすのかという覚悟が問われる。寄付も最先端の研究に寄付したいという人を集めるのにも苦労しているところなので、大学院無償化への理解を得られるのか疑問。本来は高校無償化よりも意義があるかもしれないが。
73	PhD	日本のPhDの価値はなぜ低いのか
74	YUKI.N	法人税をアカデミック納税で代用できるようにして、協力してくれた企業は大学と研究提携できるようにするとか？
75	た	博士号取得という観点で言えば社会人ドクターなんかを支援する企業とかはあるので、自分は今の現状のなかそのまま博士進もうとは思いませんでした。
76	正攻法はもう無理？	その財務省の壁を越えるには、有効打があるのか？ 国の財源をあてにできないのなら、Googleに教員と学生のデータ取り放題にさせてGoogleに授業料と生活費を全額出させる？
77	PI	文科省 財務省に頑張れと言っても無理だろう。納税者、議員を納得させる論理構築を組み立てないと実現は難しい。例 このままの趨勢では10年後には高度な技術者が国内に不足する。（外国人ばかりになる？ しかし中国にもっていかれる？）国内の研究基盤が脆弱化する。
78	ルクマン	医学部みたいに学部6年かけて研究者を育てて、医者と同じ給料にしたら増えそう
79	博士課程	この会議場にいる人々にとっては無償化の必要性は当然のことだが、外にいる人々は必ずしもそうは思っていない。誰がどうやって彼らを説得すべきなのか？ここに並んでいるコメントのような言葉遣いでは、決して利害の異なる人々の心に響かないであろう。当事者の私も含め、恥ずべきである。
80	企業さん	日本の企業が、今後博士号取得者に高い給料を出すようになるとは思いません（給料上がれば嬉しいですが）
81	Kiyopy	社会人ドクターを支援するが、博士課程の人材の採用は消極的、という企業がある理由をよく考えて。

No	ハンドルネーム	コメント
82	[素]	昔は「足裏についた飯粒」(取らないと気持ち悪いが取っても食えない) といいながら博士を目指す人がいたのに、今、支援が充実しても多くならないのはなぜ？ ここに集まる皆さんは有望と思うけれど、どんな夢があれば困難に勝てますか？
83	hoge	財源確保のためには、教育・研究に用途を限定した国債を発行できるようにするのが、ベターでしょうか。財政健全化の幻想が敵ですね。
84	大学院の価値	やはり日本の社会全体で PhD の価値が低いと思います。そこも含めて変えていくには 50 年くらいかかると思います。大学に魅力がなければ学生も大学院に残ってくれないと思います。科研費の使用制限をゆるくし大学院生のサポートをできるようにすべき。
85	PI	大学院は夢を叶える所。夢を叶えるためには学費完全無償化にしないと来ない者は進学してもすぐリタイアしてしまうと思います。大事なのは、学生が進学したら教員は生活費も含めて考えてあげて、大学院生も夢を叶えるためにリスクを感じて奨学金取れるよう努力すべき
86	修士学生 K	アメリカでは博士号とった人は、企業で高給取りになれるそうだが、アカデミアではどうなの？
87	YUKI.N	小中高については、教育基本法にも書いてある通り「人格の完成」が目的ですからね。
88	Kiyopy	ジャーナル論文が出たら博士号与える、みたいなことをやっていたら、採用も給料も期待できないのは当然
89	タックル太郎	良い学生を良い環境で育てて、その学生は日本で活躍できる場があるのでしょうか？活躍の場が必要に思います。
90	助教	一部の国立大学の学費値上げは、明らかにおかしいので、それぞれの大学で値上げさせないことも必要。
91	ある PI	資源のない日本で頑張らなければならないのは、人材育成ではないでしょうか？
92	かいちょう	小林さんの言うように、博士研究者に国が投資することの実績作りが先ずはポイント。そのためには大学の教員達が博士や修士の院生を鍛える時間を確保できるようにすることが不可欠。
93	正攻法はもう無理？	科研費と同様に、防衛省の研究費を使えらしたら、防衛省の研究費への応募をタブー視するのをやめたらどうか。